

<第67回調査>

2014年12月29日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年12月16日(火)13:00～2014年12月23日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は848件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

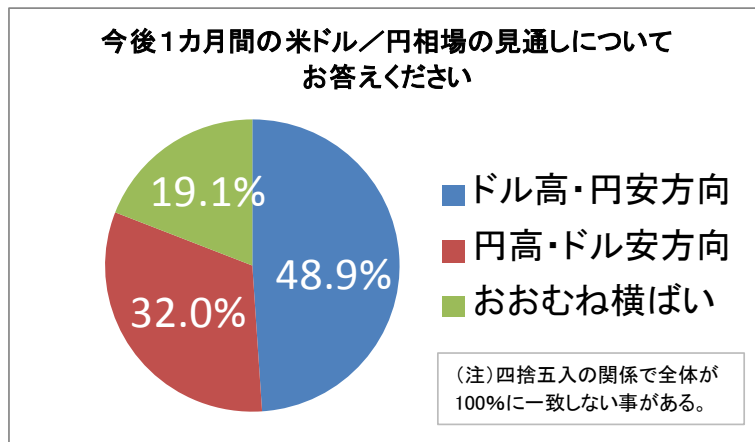
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第67回調査結果略報：円弱気見通しに陰りも】

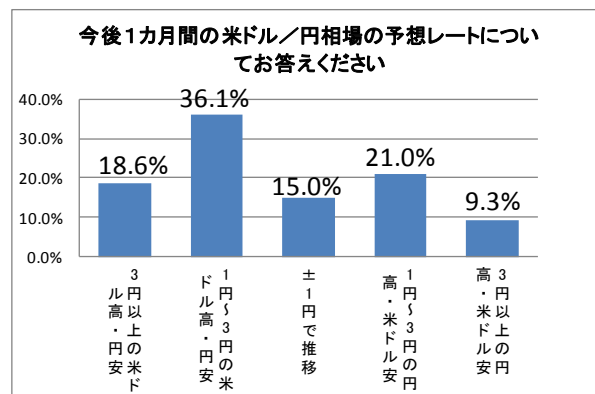
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が48.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は32.0%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+16.9%ポイントとなり前回(+55.8%ポイント)からプラス幅が大幅に縮小した。とはいえ、18カ月連続のドル強気予想となっている。調査期間中の米ドル/円相場は、115.550円まで一時下げたものの、その後は反発し、120円台を回復した。12月は8日に121.847円と2007年7月以来の高値を付けたものの、その後一旦大きく失速した事が、FX投資家のマインドをやや萎縮させたようだ。※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が36.1%と最も多く、「1円～3円の円高・米ドル安」が21.0%と続いた。さらに「3円以上の米ドル高・円安」が18.6%、「±1円で推移」と「3円以上の円高・米ドル安」は、それぞれ15.0%、9.3%に留まった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。しかし、先月から「1円～3円の米ドル高・円安(前回：52.3%)」が大きく低下し、「1円～3円の円高・米ドル安(前回：8.7%)」が伸びた点には注目したい。調査期間の最初の時点で115.550円まで値を下げた事で、これまでの様な円安一辺倒ではなく、一段の調整が入ると予想した向きが一定数いたものと見られる。

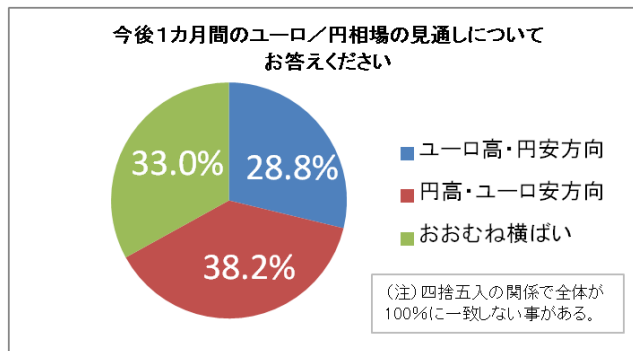


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

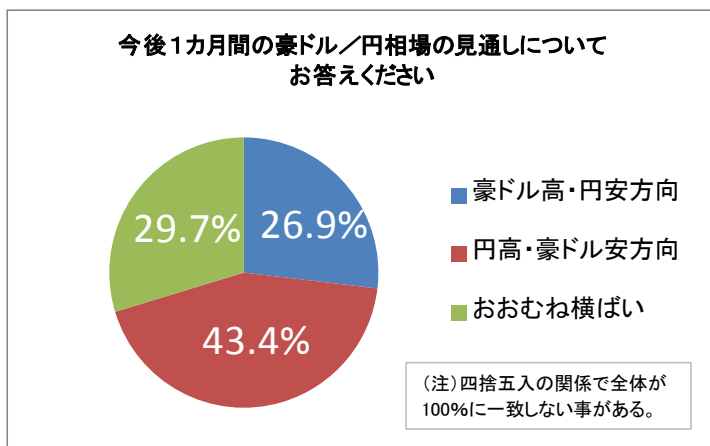
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が28.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が38.2%であった。この結果、「ユーロ円予想DIは-9.4%ポイント」となり、8か月ぶりのプラスDI(ユーロ強気・円弱気予想)となった前月から再びマイナスDIとなった。調査期間中のユーロ/円は、他のクロス円が上昇する中でほとんど動意が無かった。独自の材料に乏しく、市場の主役が米ドルとなり、ドル/円とユーロ/ドルの動きが相殺し合う形となった。11月に比べて円安に勢いが見られず、円売り主導でのユーロ/円の上昇が見込みにくくなった事が、この結果に繋がったものと見る。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が26.9%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は43.4%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は-16.5%ポイントと前回の+35.6%ポイントからマイナスへ転じた。調査期間中の豪ドル/円相場は、95円台前半から97円台後半に上伸したが、ドル/円や他のクロス円に比べると戻りの弱さは否めない。日本の選挙などのイベントが終了し、円売り圧力低下が顕著な中、豪中銀(RBA)による豪ドル高牽制や商品価格下落、中国の景気鈍化などが重石となる豪ドルを積極的に買うムードでないことが、こうした結果の背景にありそうだ。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

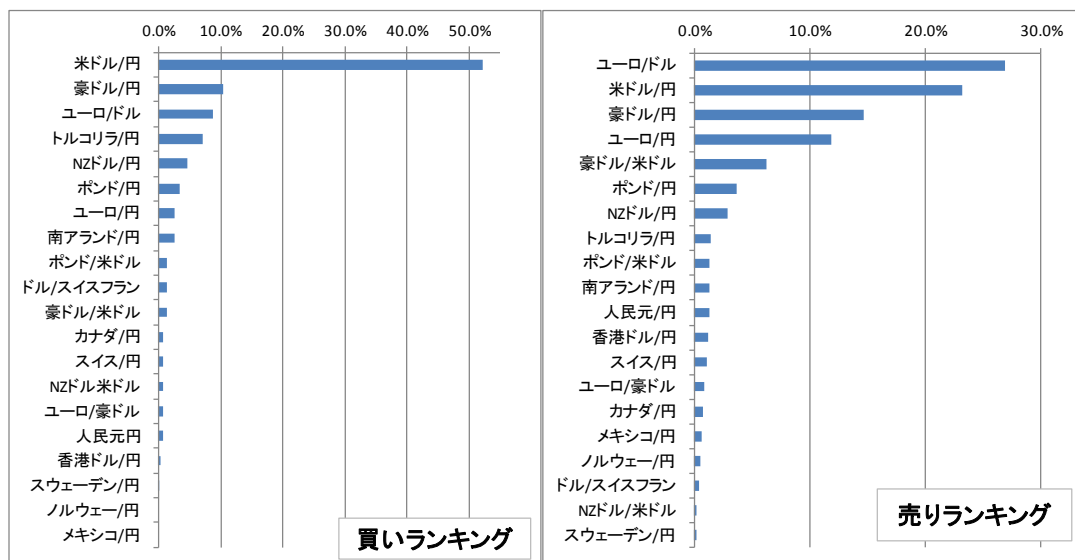


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

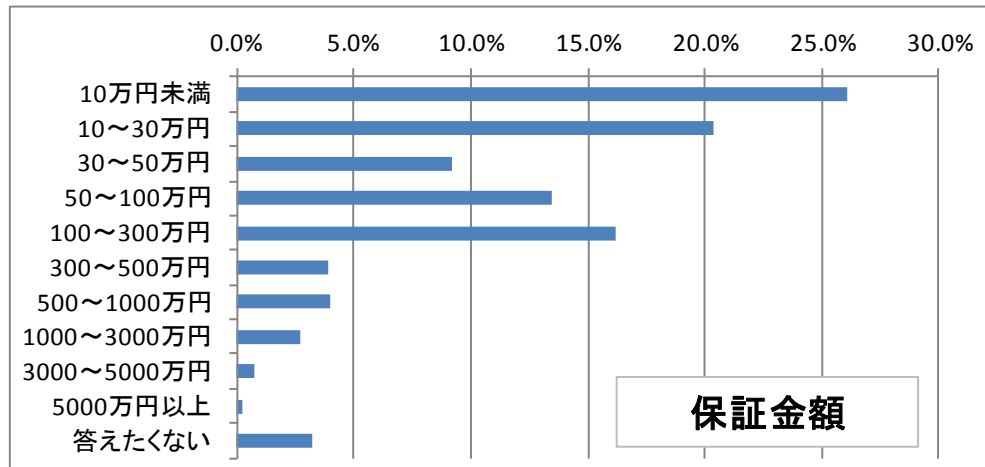
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、米ドル/円(52.1%)が他を圧倒。以下2位豪ドル/円(10.5%)、3位ユーロ/ドル(8.7%)、4位トルコリラ/円(5.1%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(26.9%)、2位米ドル/円(23.2%)、3位豪ドル/円(14.6%)、4位ユーロ/円(11.8%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円の1位は26カ月連続と最長記録を更新中で、2位の豪ドル/円も26カ月連続だ。11月10日から新たに外為どっとコムで取引が始まったトルコリラ/円は値が下がったこともあるのか前月の3位から1つ順位を後退させたものの、依然として人気の高さを見せた。高金利通貨は人気が高く、下がったところでは買いに入りたいFX投資家は多そうだ。また、「売り」で注目の通貨ペアについては、1位及び2位に変化はなく、3位と4位が入れ替わったのみだ。売りに関しては分かりやすく流動性もある主要国通貨に注目が集まる状態が続いている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

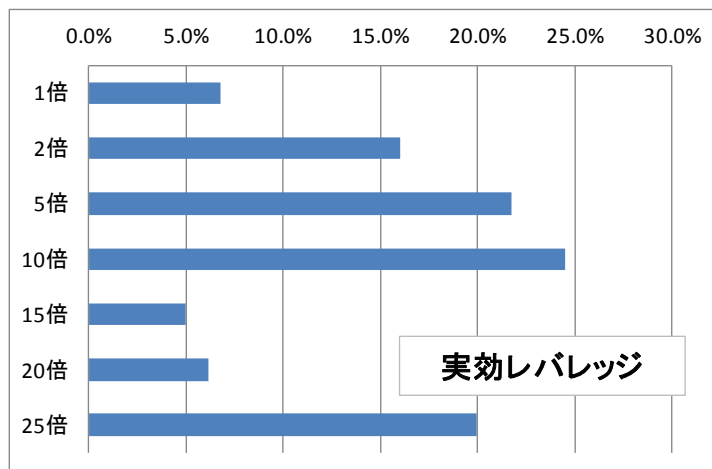
問6:FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が26.1%と最も多く、以下「10～30万円(20.4%)」、「100～300万円(16.2%)」、「50～100万円(13.4%)」、「30～50万円(9.2%)」と続いた。順位については前回から変動はなく、また回答割合にも大きな変化は見られなかった。調査期間中の為替相場は、大きく円高が進んだものの再び円売り優勢に切り返した。一旦下げたとはいえ、高い水準と言える115円台半ばで踏み止まり、また、12月初めに付けた121円台にはまだ距離がある中で、FX投資家層が保証金を増やすかどうか決めあぐねているのかもしれない。



問7:現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が24.5%と最も多く、ほとんど差がなく「5倍」が21.7%と続き、以下「25倍」が19.9%、「2倍」が16.0%、「20倍」が6.1%となった。10倍以下の合算割合は前回の66.9%から69.0%に一段と増加し、今回の調査に回答を寄せた個人投資家の平均実効レバレッジも10.9倍と前回の11.3倍から低下している。前月に続き、大ぶりの値動きが繰り返される相場展開の中で、レバレッジを抑える心理が自然に働いたものと思われる。

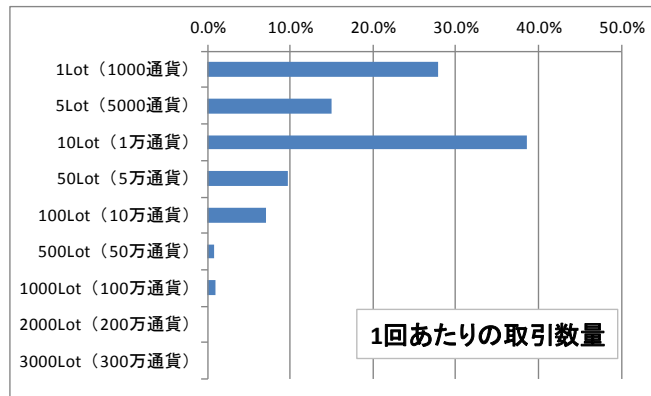


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

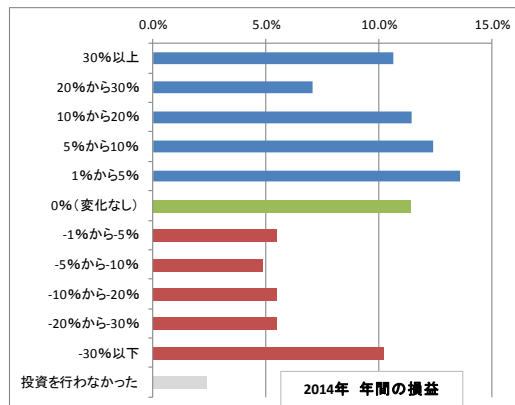
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が38.7%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が27.8%、「5Lot(5000通貨)」が15.0%、「50Lot(5万通貨)」が9.7%、「100Lot(10万通貨)」が7.1%と続いた。10Lot(1万通貨)以下の合算割合は81.5%と、前回の81.8%に非常に近い水準を保っている。問7で示された低レバレッジ化に加え、本問で示されたように「数量が抑え気味となっている状況」から、ボラティリティが高い状況下でFX投資家がリスクを押さえようとしている様子が窺える。



問9: 2014年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。(例: 100万円の投資資金が110万円になった場合10%)
また、損益について最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書き下さい。

今月の特別質問項目として「2014年1月から12月までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。また、損益について最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書き下さい」と尋ねたところ、「+1~5%」が13.6%と最も多いものの、「+5~10%」が12.4%、「+10~20%」が11.4%、「0% (変化なし)」が11.3%と僅差で続いた。1%以上の利益が出ている回答者は55.1%に達しており、原因としてはアベノミクスや10月31日の日銀の追加緩和などによる円安の進行を挙げる向きが目立った。一方、損失を出した回答者は、30%を超える大きな損失に至ってしまった向きが目立つ。この背景には日銀の追加緩和以降の急激かつ大幅な円安進行によって円ロングポジションの損切りを余儀なくされた事があるようだ。FX投資家全体として、円ショートポジションを持つ向きが多いことが、「利益を出した回答割合の方が多い」という調査結果に表れたと言えよう。

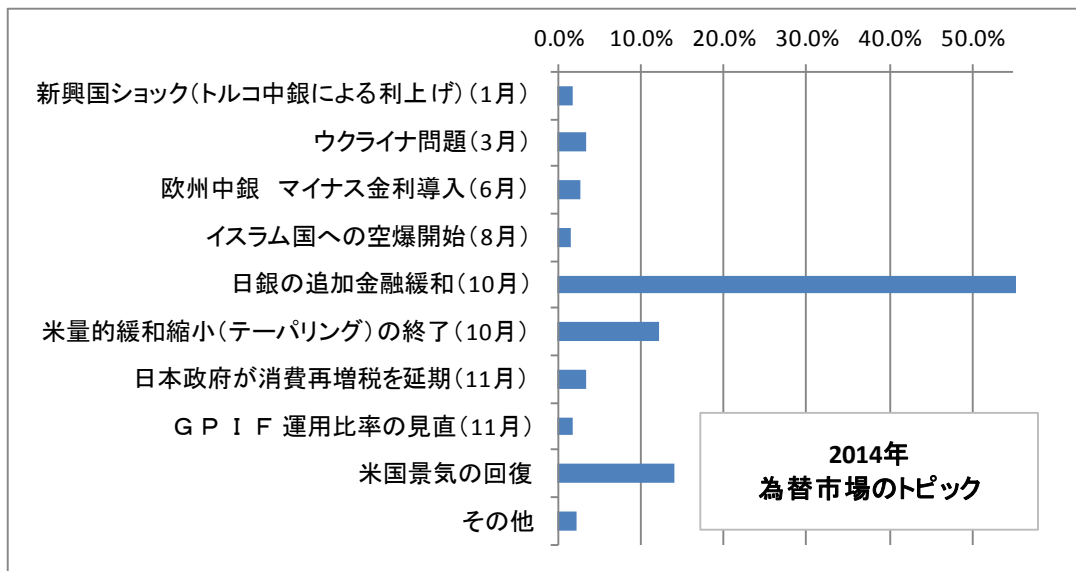


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問10: 2014年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)

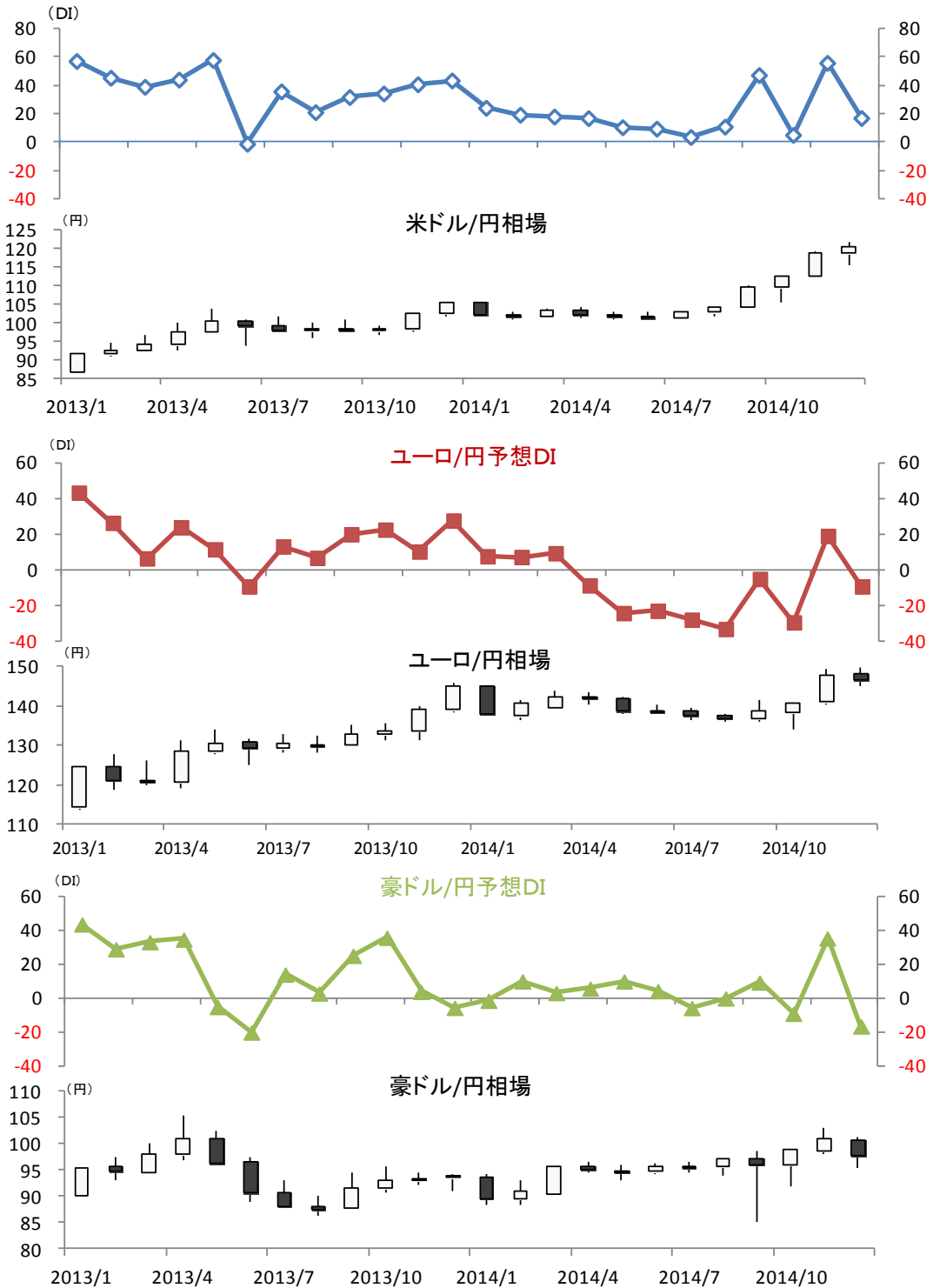
今月のもうひとつの特別質問項目として「2014年を代表する為替市場のトピックとして、最もふさわしいと思われるのはどれでしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「日銀の追加金融緩和(10月)」の回答割合が57.4%と圧倒的だった。続いて、「米国景気の回復」が14.0%、「米量的緩和縮小(テーパリング)の縮小」が12.1%と、米国の経済・金融政策に関する関心が根強い様子をうかがわせた。今年もっとも急激かつ大幅な円の変動を促した「日銀の追加緩和」がFX投資家に与えた衝撃は大きかった様子が窺える。問9の結果に日銀の追加緩和と円安を挙げるFX投資家が多かった点とも整合する。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第67回目となりました。調査開始から5年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com